



2022年  
9月号

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者  
司祭 瀬山 会治

印刷所  
文明堂印刷所

# しかし、イエスは何も お答えにならなかつた。

司祭 ペテロパウロ 柳 本博 人



今年も祈りの夏が終わろうとしていきます。この季節にあつて、わたしたちは、過去に学び、歴史に耳を傾け、神様と人間の思いと業との間の大きな溝に思いを致し、懺悔のうちに、心から平和の実現を祈ります。けれども、平和は容易には

実現しません。今の時代の出来事とは思えない戦いが後を絶ちません。力で抑えつけられ、力で抵抗しなくてはならない状況に直面させられている人々がいる。悲しい現実があります。わたしたちの献げる平和への願いを込めた祈りに、キリストは「沈黙」を守っておられるかのようです。マタイによる福音書の15章に、イエス様が、ティルスとシドンの土地で出会われた異邦人の女性から、彼女の娘の病気を癒すことを頼まれた物語が記されています。

自分と娘を憐れんで下さいという彼女の「願い」に対して、「しかし、イエスは何もお答えにならなかつた」と福音書は語ります。イエス様は、彼女の願いに對して「沈黙」を守られました。彼女がどこの誰であつたのかは、イエス様にはどうでもよいことであつたでしょう。イエス様は、彼女の「願い」と彼女の「在り方」が、神様の方を向いているかどうか、沈黙の内に、彼女の心を見つめておられたに違いありません。

冷淡にも響く、イエス様の「わたしは、イスラエルの失われた羊のところにならぬと遣わされてない」という言葉に「主よ、ごもつともです。」と答えた彼女、自分の期待に込めてくれる、自分の耳に心地よい言葉ではなくても、救い主のその言葉を正しいと受け入れることの出来た彼女は、信仰深く、心を神様に向けることの出来た女性でした。キリストは、その彼女の「願い」を聞き入れ、彼女の娘を癒すことで神様の栄光を現されました。

キリストが、わたしたちの祈りに「沈黙」を守り、「自分たちの祈りは聞き入れられなかつた」と思う時、わたしたちは、実体の無い神様に、一方的に話し掛けているかのような空しさを覚えることがあります。けれども、キリストが、わたしたちの祈りに「沈黙」を守られる時、それは、キリストが、わたしたち祈り手の心の内を見つめておられる時、祈り手が、何処を向いているのかを見つめておられる時なのかも知れません。祈りが聞き入れられないと思う時、それは、きっと、祈り手の何かが、神様の方を向いていない時で、キリストが、その「沈黙」の内に、わたしたちのために、取り成しの祈りを献げておられる時に違ひありません。わたしたちを創られた神様は、わたしたちの中に来られ、わたしたちと共におられます。わたしたちの中で芽吹いているその神様の愛の力によつて、いつも、そつと背中を押されていくわたしたちには、ほんの少しかも知れませんが、平和の実現への一歩を踏み出すための勇気が与えられていることを信じたいと思います。与えられた小さな可能性に希望をもって、今日も平和への祈りを献げたいと思います。キリストの「沈黙」は、癒しと救いの前提です。神様に心に向け、信仰を生きる日々を過ごしたいと思います。

(神戸聖三カエル教会牧師)